

小单元名	畜産業のさかんな地域	配当 7 時間	
------	------------	---------	--

1 小单元の目標と観点別評価規準

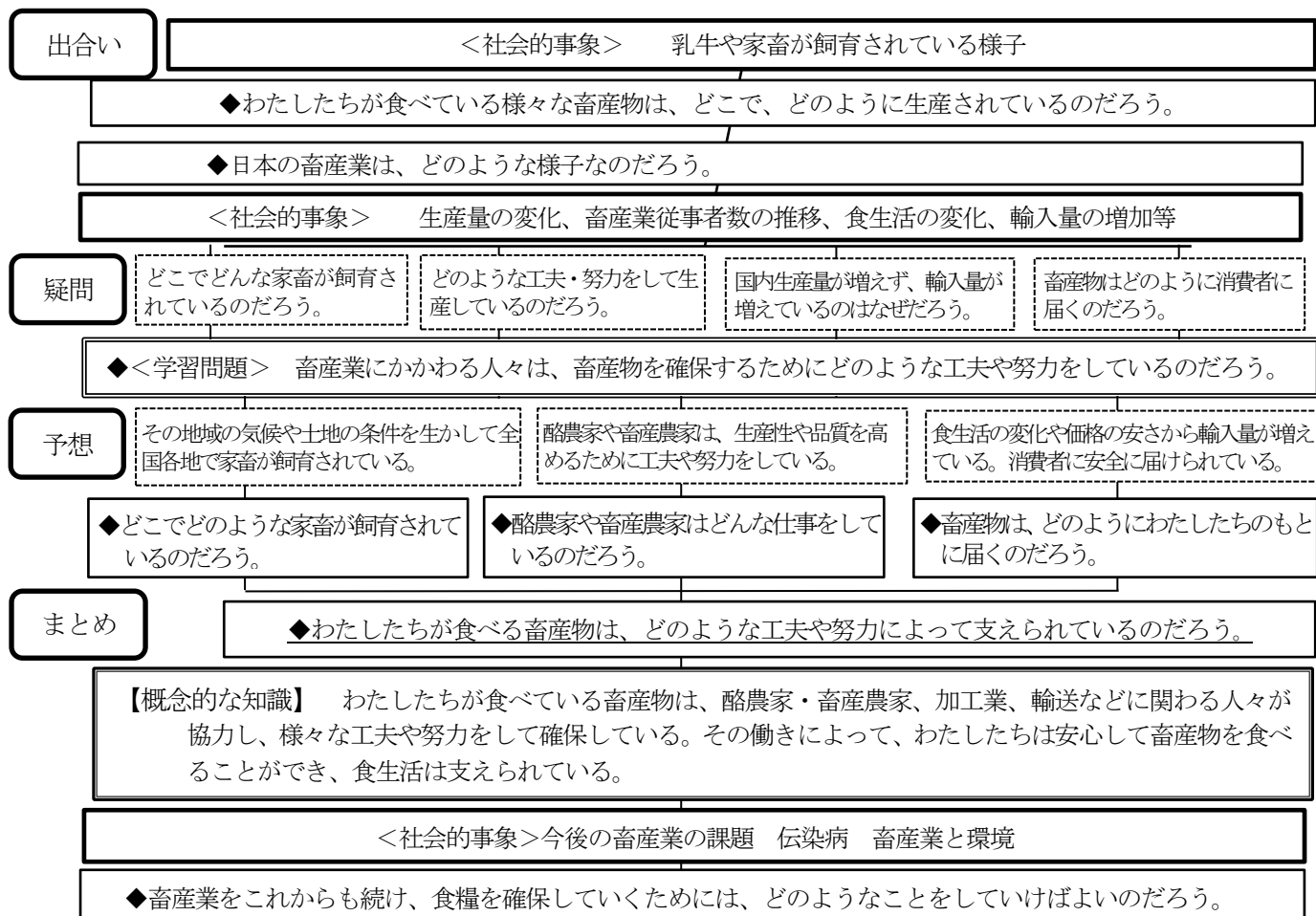
(1) 小单元の目標

我が国の畜産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、畜産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、畜産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な畜産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、畜産業の発展について考えようとする態度を養う。

(2) 小单元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や地球儀、各種の資料などで調べ、必要な情報を集め、読み取り、畜産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを白地図や図表や文などにまとめ、畜産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な畜産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見だし、畜産業に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。 ②畜産業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて畜産業に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に、これからの畜産業の発展について、消費者や生産者などの立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。	①我が国の畜産業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、これからの畜産業の発展について、消費者と生産者の立場から多角的に考えようとしている。

2 小单元の構想図 ◆問い



3 小単元の指導計画 (7時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ☆評価【観点】)
つかむ	①畜産物とわたしたちの関わりや日本の主な家畜や飼育県を調べることを通して、畜産物の生産地の分布について理解する。	○生活の中で食べている畜産物を発表し合ったり、給食で食べている畜産物を調べたりする。 ・給食では、牛乳、豚肉や鶏肉、卵を使った献立がある。 ○一人一年あたりの肉の消費量や国産割合を調べる。 ・私たち日本人は畜産物を多く消費しているが、自給率はそれほど高くない。 ・自分たちは、結構畜産物を食べている。 ◆わたしたちが食べている様々な畜産物は、どこで生産されるのだろう。 ○日本の主な生産地がどんなところか調べる。 ・乳牛、肉牛は北海道が多い。 ・卵を産む鶏は茨城県や千葉県が多い。	◎畜産加工品の写真や給食献立表 □畜産物と自分を身近に感じられるようにする。 ◎国民一人あたりの年間肉消費量と自給率のグラフ □日本人は、畜産物を多く食べていることから「どこで生産しているのか」と問いをもてるようにする。 ◎日本の主な家畜の飼育数が分かる地図、地図帳 ☆ノートの記述や発言内容から「日本の主な家畜の飼育県を理解しているか」を評価する。【知①】
	②日本の畜産業の課題について調べることを通して、畜産物の確保について話し合い、学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。	◆日本の畜産業は、どのような様子なのだろう。 ○畜産物の生産量や消費量の推移・輸入量の変化について調べる。 ・生産量はそれほど増えていないが輸入が増えている。 ・消費量が増えているから魚より肉を食べるようになったのではないか。 ○畜産業で働く人数の推移を調べる。 ・畜産農家数は減り、高齢化も起きている。 ○これまでの学習を生かして、調べたいことを出し合う。 ・課題がある中、どのようにして畜産物を確保しているのか。 ・畜産農家の方は、どのような工夫や努力をしているのか。	◎畜産物の生産量や消費量の推移 ◎輸入量の変化 □2つの資料を関連付けながら、畜産業についての概要を捉えられるようにする。 ◎畜産業で働く人数の推移 □米作りの学習を振り返り、畜産業の抱える課題がある中で、どのように畜産物を確保しているのかという問題意識をもてるようにする。 ☆ノートの記述や発言内容から「生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。【思①】
	畜産業にかかわる人々は、畜産物を確保するためにどのような工夫や努力をしているのだろう。		☆ノートの記述や発言内容から「我が国の畜産業について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態①】
しらべる	③主な家畜の生産地をもとに飼育と気候や土地の条件にはどのような関係があるか調べてその特色を理解する。	◆主な家畜は、どこでどのように飼育されているのだろう。 ○つかむ段階で調べた地図をもとにどのような気候や土地の条件かを調べる。 ・乳牛は夏でも涼しい北海道で飼育されている。 ・牛はたくさんの牧草が必要だから広い土地が必要。 ○豚やたまご用の鶏、肉用の鶏についても生産者や消費者の立場から飼育環境について話し合う。 ・牛ほど広い土地が必要なわけではない。 ・たまごは新鮮なうちに出荷したいから、大都市にちかいのではないか。	◎牛・豚・鶏の飼育の様子 ◎畜産農家の人の話 □牛と豚・鶏の飼育を比較しながら、消費者や生産者の立場で、経済面や環境面について多角的に考えられるようにする。 ☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、飼育と気候や土地の条件等理解しているか」を評価する。【知①】
	④酪農家や畜産農家の仕事を調べることを通して、畜産業に携わる人々は生産性や品質をたかめるために工夫や努力をしていることを理解する。	◆酪農家は一日どのような仕事をしているのだろう。 ○酪農家の一日を資料で調べる。 ・牛舎飼いと放牧とさまざまな飼育方法がある。 ・餌やり 乳しぼり 掃除 飼料づくり 仕事の記録 ・餌の資料を輸入に頼っていて将来が不安。 ○どんな工夫や努力があるのか話し合う。 ・病気にならないように清潔に ・休日をつくるように畜産ヘルパーさんを利用	◎酪農家の一日 (一日誌上体験) □実際に酪農家の方の話を聞けるようにしたい。(オンラインインタビューなど) ☆ノートの記述や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、酪農家の仕事の様子について理解しているか」を評価する。【知①】

	⑤畜産物はどのようにわたしたちのもとに届くのか調べることを通して人々の協力関係や加工技術の向上・輸送等を理解する。	◆畜産物は、どのようにわたしたちのもとに届くのだろう。 ○食肉センターの働きについて調べる。 ・3つの検査が行われている。 ・安心、安全を保つため、様々なルールがある。 ○安全・安心のための工夫を調べる。 ・トレーサビリティシステムという仕組みがある。 ・個体識別番号で管理されている。 ・冷蔵・冷凍が徹底されて輸送されている。 ・食品衛生法によって管理されている。	◎食肉センターや畜産加工施設資料 ◎食肉検査についての資料 ◎輸送の工夫についての文書資料 【日本のお肉の、安全・安心な管理】 □様々な立場の人が関わることで経費がかかっていることを考えられるようにする。 ☆ノートの記述や発言内容から「検査の工程、人々の協力関係、加工技術の向上、輸送について理解しているか」を評価する。【知①】
ま と め る	⑥調べたことを関連図に整理し、畜産業に関わる人たちの果たす役割を考えることを通して、畜産業に関わる人たちが我が国の食料生産を支えていることを理解する。	◆わたしたちが食べる畜産物は、どのような工夫や努力によって支えられているのだろう。 ○これまで学習してきたことを関係図に整理し、畜産業に関わる人々とわたしたちの関わりについて考える。 ・畜産業に関わる人々の工夫や努力、協力があって、わたしたちの食生活は支えられている。 ○話合いや関係図を基に、学習問題に対して分かったことや考えたことをまとめる。 わたしたちが食べている畜産物は、酪農家・畜産農家、加工業、輸送などに関わる人々が協力し、様々な工夫や努力をして確保している。その働きによって、わたしたちは安心して畜産物を食べることができ、食生活は支えられている。 ○学習問題に対する考えを話し合う。	□これまで学習してきたことを関係図にまとめることで、畜産業においても様々な立場の人たちが関わっていることを捉えられるようにする。 ☆ノートの記述から「畜産業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて畜産業に関わる人々の働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。 【思②】 ☆ノートの記述や関係図から「畜産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な畜産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解しているか」を評価する。【知②】
ふ か め る	⑦畜産業の今後の課題を調べることを通して、消費者や生産者の立場からこれからの畜産業の在り方について考え、話し合う。	◆畜産業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのだろう。 ○ブランド牛やブランド豚について調べる。 ・独特な育て方をした牛や豚（松坂牛 東京X 黒豚） ・味がよく高級な品種 ・海外への輸出 ・伝染病と殺処分 ○これまでの学習を基に、畜産業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのか、消費者と生産者の立場から考え、話し合う。 ・これからの畜産業を安定的に続けていくためには、循環型の畜産業でなければならない。 ○話し合いを基に、自分の考えをまとめる。 ・消費者だけ、生産者だけが頑張るのではなく、お互いが協力し合って、畜産業自分ができることは、現実を知っていくこと、畜産業に関心をもち続け、多くの人と考えていくことだ。	◎ブランド化 ブランド牛 ブランド豚 ◎循環型畜産業 □これまでの学習を振り返り、米づくりとの比較を通して、畜産業の在り方について考えられるようにする。 □消費者と生産者の立場の両面から多角的に畜産業について考えるようにする。 ☆記述や発言から「学習したことを基に、これからの畜産業の発展について、消費者や生産者の立場から多角的に考え、適切に表現しているか」を評価する。【思②】

5 学年 社会科学学習指導

(食育に関わる学習)

令和 年 月 日 () 第 校時
小学校

第5学年 組 名

学級担任 (T 1)

栄養教諭 (T 2)

1 小单元名 「畜産業と食料生産に関わる人々」(7時間)

2 小单元の目標

我が国の畜産業について、生産の工程、品質を高める努力、人々の協力関係、技術の向上、輸送、販売方法、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、畜産業と食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、畜産業・食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質で安全な畜産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、畜産業の発展について考えようとする態度を養う。

〈食育の視点〉

- 日常食べる機会が多く、安全に管理される畜産物の飼育や管理の方法を知って、育て方や、検査、流通販売のシステムに関心を持つようにする。(食品を選択する能力)
- 食物を大事にし、生産等にかかわる人々へ感謝する心をもつ。(感謝の心)

3 小单元の観点別評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①生産工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて地図帳や地球儀、各種の資料などで調べ、必要な情報を集め、読み取り、畜産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを白地図や図表や文などにまとめ、畜産業に関わる人々は、生産性や安全性、品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、安全で良質な畜産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	①生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見だし、畜産業に関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。 ②畜産業に関わる人々の工夫や努力とその土地の自然条件や流通の環境、需要を関連付けて畜産業に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に、これからの畜産業の発展について、消費者や生産者などの立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。 ・牛・豚・鶏の育て、また安全性を守っている方に関心を持ち、生産に携わる人々への感謝の気持ちを持つことができる。	①我が国の畜産業について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に、これからの畜産業の発展について、消費者と生産者、流通関係者の立場から多角的に考えようとしている。 ・畜産物の飼育や検査・管理の方法を知って消費者として正しい選択をすることができる。

4 児童の実態

5 本時の指導 2 / 4時

(1) 本時のねらい

- ・畜産物はどのようにわたしたちのもとに届くのか調べることを通して人々の協力関係や加工技術の向上・輸送等を理解する。
- ・食肉の検査・流通・販売について調べ、育て方や飼料について、未来のことも考えながら働く人々の努力や思いに気付く。(知識・理解)
- ・日常食べる機会が多い精肉に携わる人々の思いを知り、精肉への関心を高める。

(思考・判断・表現 食品を選択する能力 感謝の心)

(2) 展 開

過程	◆ 主な発問	○ 主な学習活動 (内容・予想される児童の反応)	□ 留意点、 ◎ 支援、 ☆ 評価	資料
(5分)	◆ 前時授業をおぼえているか。	○ 前時を思い出す。 ○ 畜産の飼育について振り返り。		
食肉を生産するにはどのような工夫や努力をしているのだろう				
(5分)	◆ 給食の材料はどうか。	○ 給食の食肉はどのように運ばれているのか考える。	◎ 給食の食肉はどのように確認されているのか話す。	
(10分)	◆ 畜産物は、どのようにわたしたちのもとに届くのだろう。	○ 資料を確認する。 ○ 食肉センターの働きについて調べる。 ・3つの検査が実施される。 ・安心、安全を保つため、様々なルールがある。	◎ 食肉センターなど畜産加工施設についての資料 ◎ 食肉検査についての資料 ◎ 輸送の工夫についての資料	『お肉の学習ガイドブック』【日本のお肉の、安全・安心な管理】
(10分)		○ 安全・安心のための工夫を調べる。 ・トレーサビリティシステムという仕組みがある。 ・個体識別番号で管理されている。 ・冷蔵・冷凍が徹底されて輸送されている。 ・食品衛生法によって管理されている。	◎ トレーサビリティについての資料 ◎ 個体識別番号についての資料 ◎ 質問によって、栄養教諭、担任などが答えていく。 □ 様々な立場の人が関わることで食肉の安全安心が保たれていることを考えられるようにする。 □ 様々な立場の人が関わることで経費がかかっていることを考えられるようにする。	『お肉の学習ガイドブック』【日本のお肉の、安全・安心な管理（詳細版）】
(10分)	◆ 流通や販売について分かったことはなんだろう。	○ 流通や販売について分かったことをまとめる。	☆ ノートの記述や発言内容から「検査の工程、人々の協力関係、加工技術の向上、輸送について理解しているか」を評価する。	
(5分)	◆ どんなことが分かったのだろう。	○ 分かったことと感想を発表する。	☆ 「食」は様々なところで関わる人々がいることに気づかせ、感謝の気持ちをもたせる。	

8 評価

- ・食肉に関わる仕事で働く人々の工夫や努力について知る。
- ・食肉の飼育や検査機関における人々のかかわりを基に、肉への関心を高めるとともに、「食」にかかわる人々への感謝の気持ちをもつ。